

# プレーパークで子育て親育ち (よちよちプレーパークと子育て相談)

コロナ課題解決型

事業費 321,650 円  
助成額 194,000 円

## ●当初の課題・事業目的

乳幼児の保護者は、屋内の子育て広場や児童館も閉鎖していたり定員制だったり居場所がなくなったり、限られたりしている。また、マスクをしている大人に囲まれ、言葉の発達など子どもの発達にも不安を抱いている。そして乳幼児が外遊びで育つにもかかわらず、保護者が外遊びをさせていない昨今の状況に加えて、コロナ禍がそれをより加速させている。これらの現状から、⑦乳幼児親子の居場所となる④不安が解消できる⑤子育て親育ちの応援、の三つの目的から本事業を実施し、継続した乳幼児親子の支援を行う。ただし、手を差し伸べるだけでなく、子どもも保護者も主体的に育つことを目的とし、この事業で達成感を得て日常生活にも役立てるものとした。



代表 米山 清美

## ●事業概要

- ⑦乳幼児親子の居場所となる事業：【よちよちプレーパーク】毎月第2第4月曜日 10時～13時、国有地プレーパーク、16回、延べ312人—毎回0,1,2歳児親子が5,6組から10組ぐらい訪れた。また地域の小規模保育園の子どもたちが毎回のよう訪れ、在宅の乳幼児と遊んでいた。保護者同士が語り合う様子も見られ、子どもを真ん中にした交流が見られた。
- ④不安が解消できる事業：【子育て相談】毎月第2水曜日 13時30分～15時、国有地プレーパーク、8回、延べ73人 助産師：森田輝、薬剤師：藤原亮子—奇数月は助産師の発達相談、偶数月は薬剤師のお薬相談を実施。子どもを外遊びさせながら専門家に聴く場とした。前者は発達障害の相談、後者はアレルギーや子どもの薬の服用についての相談などが多かったようだ。
- ⑤子育て親育ちの事業：【うんどう会、クリスマス会】11月5日(土)うんどう会・63人、12月24日(土)クリスマス・43人、国有地プレーパーク—参加者が主体的に企画運営した。子どもたちは楽しそうで、それを見る保護者も楽しそうだった。



## ●事業の成果・工夫した点

元々発足当初より乳幼児に特化したプレーパークをしていて乳幼児親子の参加は多かったが、この事業で普段のプレーパークでもより乳幼児親子の参加が増え乳幼児保護者の外遊びへの理解が深まった。工夫したことは子どもたちの見守りを幼児保護者とし、子どもや保護者の気持ちに寄り添った場となるように工夫した。また、地域の児童館と協力して広報に努めた。

## ●苦労した点・今後の課題

コロナ禍での感染対策に苦労した。事業が始まった当初はまだ不安があり、屋外での事業とはいうものの乳幼児保護者へのアプローチを感染状況と見比べながら行った。目的にもあるように保護者同士の繋がりが出来るように工夫したが「やっと大人と喋れた」という保護者もいて、その必要性を感じた。「外遊びでの子どもの育ち」と「保護者の居場所」という課題はコロナ禍だけではなく恒久的な課題としてとらえていきたい。

## ●代表者の感想

上記の成果にも書いたが、乳幼児親子の参加は増えた。今回の事業で乳幼児の外遊びに特化したパンフレットを作ることが出来た。それには乳幼児のころからプレーパークに参加していた保護者達がコメントを寄せてくれた。その利用したからこそこのコメントに参加した保護者もいたようだ。